
QA35 ヨウ素 131 は半減期が短いため、今調べてもどれくらい被ばくしたのか分からないと聞きました。子供が本当はたくさん被ばくしていて、将来甲状腺がんになってしまうのではないかと心配です。

ヨウ素 131 は半減期が約 8 日と短く、被ばく線量は少なかったため、今調べても今回の原発事故当時どれくらい被ばくしたのかは分かりません。しかし、平成 23 年 3 月 26～30 日に、国が福島県いわき市、川俣町、飯館村の 0～15 歳の子供、計 1,080 人の甲状腺をサーベイメータ（放射線検知装置）で検査したところ、原子力安全委員会が定めた基準値（1 時間当たり 0.2 マイクロシーベルト、一歳児の甲状腺等価線量として 100 ミリシーベルトに相当）を下回っていたことが報告されています（第 31 回原子力安全委員会資料第 4-3 号）。

この地域は、連続して一日中屋外で過ごしたという保守的な仮定で、平成 23 年 3 月 23 日の SPEEDI の計算による原子力安全委員会の推定から、ヨウ素 131 による被ばくが高い可能性があるとして評価された地域です。そのため、上記の検査が行われ、基準値である 1 時間当たり 0.2 マイクロシーベルトを超えるものがなかったことが確認されました。当初、被ばくが高い可能性があるとして評価されたこの地域では、サーベイメータを用いた実際の検査により、小児甲状腺がんのリスクが高まる被ばく線量にはなっていないことが分かったことから、他の地域の子供も、そのレベルの被ばくは受けていないものと推測されています。

しかしながら、そのほかの地域では甲状腺の被ばく線量を実際に測定できなかったことを考え、長期の健康調査の一環として、福島県内の全ての子供を対象に甲状腺の超音波検査が行われています。

出典：放射線医学総合研究所ウェブサイト「放射線被ばくに関する Q&A」より作成

出典の公開日：平成 25 年 10 月 31 日

本資料への収録日：平成 24 年 12 月 25 日（平成 24 年 4 月 13 日公開による）

改訂日：平成 27 年 3 月 31 日